

平成 29 年度一般会計補正予算（第 7 号）

3 億 9 1 0 0 万円 追加

歳 入		歳 出	
		(△はマイナス)	
国庫支出金	1 億 9 4 3 2 万円	農林水産業費	2 億 8 1 3 5 万 5 千円
繰入金	3 7 6 8 万円	商工費	1 億 2 0 8 5 万 9 千円
町債	1 億 5 9 0 0 万円	予備費	△ 1 1 2 1 万 4 千円

地方創生拠点整備交付金及び財政調整基金繰入金の増額を見込むほか、入浴施設整備事業及び山の遊び館整備事業に係る関連経費を措置するとともに、繰越明許費及び地方債の一部を変更。



山の遊び館イメージ

賑わい拠点施設 (入浴施設整備事業)

問 菅原研治 議員

入浴施設の構造は。また、最大何人入浴できるのか。

答 農林建設課長

木造平屋で335㎡。男女それぞれに最大15名が入浴可能。

問 菅原研治 議員

施設にはボイラーもあるが、民家が近く、防災対策として防火壁などを設置する予定は。

答 農林建設課長

防火壁の設置は考えていないが、防災については考慮する。

問 梅津政志 議員

荷物の盗難等防犯対策は。

答 農林建設課長

ロビーにカメラとコインロッカーを設置する。

山の遊び館整備事業

問 梅津政志 議員

施設の中に会議室等も設けるようだが利用目的は。

答 ふるさと振興課長

会議やセミナー、研修等のほか、イベントの際などの簡易更衣室として使用を想定している。



所管事務調査の報告

12月定例会において申し出た、「賑わい拠点施設（多目的交流棟）の進捗」と「宇検村との物産交流」の2件について、所管事務調査が終了しましたので報告いたします。

今回の調査に当たっては、2月20日に伊藤総務課長、松本ふるさと振興課長、渡部、橋本両課長補佐を説明員に調査を実施いたしました。

賑わい拠点施設多目的交流棟は1億5552万円をかけ建築を進めているもので、2月末の工期に向け、調査日現在で97%の進捗に至り最後の工程を残すのみとのことでした。

建物は町内では初めての前面がガラス張りであることから、大きな震災時などにおいてガラスの強度や窓用ロールスクリーンが飛散を防止できるかなどの質問があり、ガラス窓の強度の安全性とロールスクリーンは直射日光を遮断する役割があるものの、飛散防止の効果は期待できないとの説明でした。懸念される建物裏の積雪や屋根からの落雪についても巻き込みによる建物への被害を防ぐ対策も取られておりました。

賑わい拠点施設内には今後多くの施設が建築される中で消防水利についても不安があり、付近には消火栓が一基と近くの水路を水利として利用することで対応とのことでしたが、防火水槽の設置についても検討課題であることを感じました。

鹿児島県宇検村との物産交流については、気候風土が大きく異なり宇検村の「パッションフルーツ」や「たんかん」を町内の直売所において委託販売を実施し、また七ヶ宿産のリンゴや源流米、漬物などの特産品を宇検市場まつりに展示即売し好評を得ているが、双方の町、村とも特産品が少ないことと運賃や輸送に係る日数が今後物産交流を進めるうえでの大きな課題である。町が農家から米を買い取り精米して宇検村に常時在庫出来ないか、源流米のブランド化を進め品質の良いものを安定供給するべきではないかなどの意見がありました。また輸送時の運賃の助成なども積極的に推進し人的、文化交流と共に経済の交流を活発に推進する事を望み報告といたします。

産業建設常任委員会
委員長 梅津政志



▲うけん市場

産業建設常任委員会
「賑わい拠点施設（多目的交流棟）の進捗」
「宇検村との物産交流」